

協議会ニュース 119号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2008. 7



八重咲きウスアカカタバミ（田原市）

オレンジがかった花は、普通種より一回り大きく目につきました。

イラスト・文：東三河支部 中西普佐子

研修会「シダ植物」	山田博一P2
あいちの自然観察会		
新緑の裏谷を訪ねて	小山昭二P3
「初夏の風」が主役の観察会	星野芳彦P4
会員のページ		
海上の森で子どもたちとのふれあいを通じて	山口健P5
ナスナ・ホトケノザの開花時期	牧野紀子P6
海の生き物紹介		
干潟に棲むナマコ「ヒモイカリナマコ」	中井康夫P7
オオキンケイギク調査報告	吉田彰P8
理事会報告	P10
事務局だより	P11
行事案内・編集部だより	P12

研修会「シダ植物」

尾張支部 山田 博一

日時：6月8日（日）天気：曇りのち晴れ

参加者：尾張支部 9名、他支部 1名、一般 1名

平成 20 年度の尾張支部主催の協議会研修会が、可児やすらぎの森で行われました。多忙な中、生科学総研株式会社（生物環境研究所）の所長である村瀬正成氏を講師として迎えて、「シダ植物」というテーマで行われました。

最初に、図鑑をたくさん並べて、「図鑑はわかっている人向けに作ってあり、わからない人向けではない」という問題点を指摘されました。また、シダの同定は難しく絵合わせだけでは通用しないことも教えてもらいました。

早速、やすらぎの森に入り、村瀬講師の解説が始まりました。プロの自然観察会を開催しているので、声の出し方、解説のポイントの取り方、説明の仕方が我々指導員に一つ一つ参考になります。「プロはここまでやるのだ!」と感心させられました。シダの現物を使いながら、ベニシダとイタチシダの区別の一つとして、下向き第一小羽片が長いのがイタチシダ、短いのがベニシダ、シシガシラは栄養葉と孢子葉の二種類の葉があり効率よく分業している話は印象に残りました。

難しい話では、シダはすべてが、高校の教科書に載っている前葉体の有性世代と孢子体の無性世代を交代する世代交代をするわけではなく、西表島のような湿潤で環境の良いところでは世代交代のための孢子をあまり作ろうとしないシダがあるそうです。無配生殖とは生活環から減数分裂と受精がなく、親個体と同じクローンが引き継がれる生殖様式ということです。親と同じクローンが引き継がれるのであれば、集団内の多様性は乏しくなるはずですが、無配生殖を行うシダ植物は形態的には多様で、形態からの分類が困難な種が数多く存在し、遺伝的にも多様なので、シダ植物の種の分化を考えると、無配生殖を行う種が多様性を持つことは不思議です。特にオシダ科は孢子生殖をしないで無性芽や栄養生殖のような無配生殖をするのが顕著だということでした。

シダの研修会なのに、シダだけでなく土手の斜面に吹きつけとして使っている中国原産のイワヨモギ、ヤマハギ、コマツナギの話など、被子植物も解説して頂きました。

終わりに、村瀬講師からシダにとりつかれた経緯について、「自分のように喧嘩早い荒々しい性格だと、シンメトリーなシダを扱うと落ち着く。焼き物でも、荒々しい戦国時代は天目茶碗や楽茶碗のようなシンメトリーなものが流行し、平和な時代になると変化を求め織部茶碗のような左右不対象な焼き物が流行する」という示唆に富む話をしていただきました。

解散後、「氷場」ヘグンパイトンボやサンコウチョウの雛を見に行きました。

出現種（シダ）：イヌワラビ、チャセンシダ、ヤマヤブソテツ、オクマワラビ、トラノオシダ、ヤマイタチシダ、ゲジゲジシダ、ジュウモンジシダ、リョウメンシダ、イノモトソウ、イワガネゼンマイ、ヤワラシダ、イワヒメワラビ、トウゲシバ、ミツデウラボシ、イヌシダ、ノキシノブ、ワラビ、シシガシラ、コバノイシカグマ、ミドリヒメワラビ、ゼンマイ、ミゾシダ、ベニシダ、ヤマイヌワラビ、タニイヌワラビ、ハリガネワラビ

新緑の裏谷を訪ねて

奥三河支部 小山 舜二

日時：平成 20 年 5 月 11 日(日曜日)

10:00~15:00

天気：霧雨〜くもり

場所：段戸裏谷（北設楽郡設楽町田峯字段戸 1 番地 1）

参加者：一般 12 名、

指導員 10 名

段戸裏谷原生林(きららの森)は、標高約 1,000m に位置する残存面積約 130ha の太平洋型ブナ林である。この森は主に高木層をブナ、ミズナラ、モミ、ツガ、サワラが占め、トチノキ、ホオノキが点在する。亜高木層にはシデ、カエデ、ヤマザクラ、ナツツバキ、コシアブラなど、そして低木層をバイカツツジ、アブラチャン、シロモジなどで形成されている。林床はスズタケが優先し、ところどころにミヤマシキミの群落がみられ、県下有数の原生の森である。

当日は、現地集合 10 時近くまで小雨模様。出足を心配したが、指導員を含め 22 名の参加を得た。奥三河支部の観察会としては上出来な集まりで、コンパクトな充実した観察会ができるものと自己評価をした。

標高 1000m 付近で、雨上がりの肌寒さが感じられ、参加者は一様に防寒具を着用。新緑匂う原生林へと足を踏み入れた。

観察コースはあらかじめ下見を行ったポイントごとに各指導員の得意分野で原生林の植生、野鳥の鳴き声、川(源流)の成り立ちなど、懇切丁寧な解説を交えた観察会が行われた。参加者は広葉樹林の絨毯を踏みしめ、

繁殖期に入る夏鳥などの野鳥のさえずりを聞き、神秘的なギンリョウソウの群落に感動。樹林や湿地帯の構成など、原生の森をつぶさに見聞き、自然の偉大さ、大切さを感じ摂るとともに、よい酸素を供給したようである。また、各指導員も与えられたポイントにおいて適切な観察指導を行うなど、観察力、質の向上に満足げであった。



『初夏の風』が主役の観察会

～ 豊川放水路自然観察会を終えて ～

東三河支部 星野 芳彦

日時：平成20年6月1日(日曜日) 9:30～12:00 天気：くもり

場所：豊川放水路取入口下流（豊川市行明町）

（右写真が観察会会場付近のヨシ原です。）

参加者：一般 23名 指導員 17名

観察会を企画するときいつも心がけていることがあります。それは、どのように自然の織り成す物語が語れるかということです。今回は、ヨシ原を中心に水辺の動植物を観察したわけですが、中でも川面を吹き抜ける「初夏の風」を感じることを主眼におきました。

観察会は、まず弓張山系(愛知と静岡の県境となる山並)の見渡せる堤防からスタートです。解説者の、中央構造線や岩石など地球規模のスケールの大きな話を聞いていると見慣れた山や川の風景がいつもと違って見えてきます。続いて豊川の河畔林に話題が変わります。視線が遠くから近くにうつってきました。目の前では解禁されたばかりの鮎釣りの竿が何本も見えます。

このあと豊川本流から豊川放水路に移動し、ヨシ原を堤防の上から眺め、オオヨシキリ(上写真の右下部分)の初夏を告げる囀りをききました。少し薄日がさして暑くなってきましたが川面を渡る風の心地よさをみんなで実感しました。

さて、いよいよ水辺に向かいます。前日までの雨で水位が高いものの、岸からたくさんのカワニナが観察できました。河口から何キロも上流ですが、汽水域のためハゼの稚魚やカニの仲間をはじめ、ヤマトシジミも生息していて予想以上に豊富な生物相に驚きます。2005年に私たちはこの周辺の生物調査を毎月行い、ヨシ原のまわりでは46種の野鳥を記録しました。

その多くはいわゆるサギやシギ、カモなどの水辺の鳥ですが、ミサゴやチョウゲンボウといった猛禽類にも及びます。これだけの野鳥を支えているのは、ヨシ原を中心とした生物同士の食物連鎖であることはいまでもありません。

最後にヨシ原に下りてみました。鬱蒼としたヨシの根元は以外に硬く、乾いています。小石かと思って近づいてみるとカワザンショウガイという巻貝です。カニの巣穴も見つかりました。やはり、ヨシ原には多くの生物がいる！

観察会のまとめに、熱湯を入れた霧吹きからの霧が少しも熱くなく、むしろ涼



カワザンショウガイ



オオヨシキリ



カワニナ

しく感じることを実験しました。これは打ち水の原理を示しているのですが、風を利用して夏を涼しく暮らしてきた祖先たちの知恵を再確認しました。

折りしも、COP10の名古屋開催が決まったところです。地球環境を考えるヒントは、伝統的なヒトと自然との関わりにあるのでは…と観察会を締めくくりました。

以上、観察会のライブ中継のような報告です。

最後になりましたが、遠路はるばるお越しいただいた、名古屋支部、知多支部のみなさん、どうもありがとうございました。

ございました。

海上の森で子どもたちとのふれあいを通じて

尾張支部 山口 健

5月25日(日)は海上の森であいちの自然観察会を行う予定でしたが、朝から県内で大雨洪水注意報が発令されたせいか予定時間になっても参加者が一人も集まらず、観察会はやむなく中止になりました。しかし同じ時間に山口駅にネイチャースクールを開校されている棚川菊蔵指導員が3人の子どもさんの参加者を連れて来られ、この日に観察会を行うようでした。棚川さんは今まで何かと縁があり、海上の森でもよく会う方で、せっかくの機会なので一緒に観察会を行うことにしました。あいちの自然観察会ではビンゴゲームを行う予定で、子どもたちにビンゴシートを配ると興味をもって早速ビンゴに挑んでいました。この日あいちの自然観察会のために挨拶に来られた名古屋支部の浅井聡司指導員も同伴し、山口駅近くの水を張ったばかりの田んぼにホウネンエビやオタマジャクシなどの観察をし、屋戸橋近くの土手でイタドリを使って草笛作りをしました。子どもたちは意外に上手にナイフを使って草笛の材料をカットし、自作の草笛を試行錯誤して鳴らしています。あまり熱心なので、森の中に入る前に土手の道沿いで観察会は終わってしまうのではないかと思います。観察会では特に子どもたちが参加している場合は、そこにいる生き物を探したり捕まえたり、現場の自然の対象物を使って何かを作ったりするなど自発的な活動を取り入れると格段といきいきとしてきますね。あいちの自然観察会用に作成したビンゴは、子どもたちがゲーム感覚で自然と親しむのに成功し、これであいちの自然観察会の下準備の苦労が少しは報われました。ビンゴの項目にある白い花、チョウ、キノコなど棚川さんや僕が多少手助けもして次々と見つけてビンゴを埋めました。おかげで景品用



子どもたちの草笛作り

のお菓子2袋がたった3人の子どもによってすべて無くなってしまいました…。昼からビンゴの最後の項目のサワガニを見つけた時、子どもたちは大はしゃぎで手に乗せたり、写メール専用の携帯で写真を撮っていました。その後海上川沿いでサワガニなどを探しながら、沢の石に含まれる雲母などの鉱物を金槌で割りながら観察しました。時にはガラス玉のように透明な水晶らしいものも発見してみんなでしばし見入っていました。これまで自然観察会で石の観察を体験したことはなく新鮮でした。



海上川で石の観察

子どもの多い観察会ではただ教えるのではなく、わくわくさせるような自然体験をさせて自然を好きにさせることが一番だと思います。単に学習だけでは、出された課題を提出して終わりで先が続きませんが、自然が好きになれば自ら進んでフィールドに出向くようになるし、わからないことがあれば図書館などで調べて疑問を解くのも楽しいし、調べてわかったことはフィールドで確認したくなります。このような体験を重ねることによって自然に対する理解が深まりつながりが見えてくるし、自然に対する愛情も育まれてくると思います。今の子どもたちは以前にも増して身の回りから自然が失われ、それに加えて、放課後の塾通い、また物騒な世の中なので子どもたちが外に出る機会も減るなど子どもと自然のふれあいや地域との結びつきが希薄になっているように思います。このような状況だからこそ、子どもたちや若い世代に自然とふれあう喜びを伝えられるような観察会を来年こそ行いたいと思います。

調査記録の紹介

ナズナ・ホトケノザの開花時期

2007 年 4 月～2008 年 3 月

東三河支部

牧野 紀子

2007 年 4 月から 1 年間、ナズナ・ホトケノザがどれ位の期間、開花が見られるのかを調べてみましたので、その結果を紹介します。

フィールドを歩いて花の記録をつけたという単純な内容ですが、図鑑の記録とは大きく異なり、かなりの時期、次から次へと花をつける株が出現していました。皆さんの地域ではどんな様子でしょうか？

見てみる機会がありましたら是非！

■調査場所：豊橋市植田町（主に畑地）

■調査期間：2007 年 4 月 1 日

～2008 年 3 月 31 日

■開花終認日：2007 年 6 月 19 日

■開花開始日：2007 年 10 月 16 日

図鑑：「野に咲く花」

（山溪ハンディ図鑑 1）

ナズナ
（アブラナ科）
図鑑の花
期
3～6 月



ホトケノザ
（シソ科）
図鑑の花
期
3～6 月



ナズナ



ホトケノザ



07 年
4 月

7 月

10 月

08 年

1 月

3 月

※ナズナ、ホトケノザともほぼ同時期

は花期間を示す

知多の海岸生物 4

干潟に棲むナマコ「ヒモイカリナマコ」

知多支部 中井 康夫

知多の砂や泥からなる干潟にナマコがいると聞いたら「まさか。」と言われるに違いない。

しかし、そう言われてもしかたないと思う面もある。実際、見た目ではゴカイの仲間くらいにしか見えないからである。体は細く、中が透けて、体にヌルヌルの粘液が付いていてこれに微妙に砂・泥がついていると、そのように見えてしまう。また、スコップで掘り起こした時の様子も、割れた土の塊の中で、体がかなり伸びきって白っぽい細いひものように見える。だから、初めは私も他の生物に気を取られて、何回となく見逃している。実際、見ても、これが何だか分からなかったのである。ようやく、調査にゆとりができたころ、手頃なサイズの完全な状態のものが見つけれられたので写真がとれそうになり、そこで見た触手らしいものの存在と写真撮影に何とか成功したことがこのナマコを知るきっかけとなったのである。

しかし、半年以上、種名不明のまま過ぎる。たまたま実習でお世話になった『三崎臨海実験所』で、先生にお尋ねしたところ、「イカリナマコ」の仲間であることを教えていただく。そのときやっと、持参していた本により、このナマコが「ヒモイカリナマコ」であることが分かったのである。これには、また不思議な因縁がある。＊かつて大島廣が『三崎臨海実験所の水槽』から得られたヨーロッパの個体に「ホソイカリナマコ」という和名をつけたというが、これと酷似するのが「ヒモイカリナマコ」だったのである。(ガイドブック参照)・・・このときばかりは、あまりの偶然の重なりに驚かずにはおれなかった。こんな体験をした関係で、「ヒモイカリナマコ」は、一般に見栄えのしない地味な生き物であっても、私にとっては特別な思いを寄せる生き物の一つになっている。



ヒモイカリナマコ

＊参考 ナマコガイドブック 本川達雄・今岡 亨 <阪急コミュニケーションズ>

オオキンケイギク調査報告

本年度 スクミリンゴガイ分布調査について

調査担当 吉田 彰

■オオキンケイギク調査について

昨年度、私たち愛知県自然観察指導員連絡協議会では、特定外来生物と指定されている「オオキンケイギク」の生息調査を行いました。

このオオキンケイギクを調査対象に選定したのは、愛知県内のいたる所で普通に見られる外来生物であり、非常に目立つ花を咲かせ、比較的識別が簡単であることからでした。そして何より多くの会員の方々に、いつの間にか身近な自然が、これまで存在しなかった生物の侵略により、失われていることに気がついていただきたいという思いからでした。

調査に協力をいただいた方は、合計 16 名(名古屋支部 1 名、尾張支部 4 名、知多支部 6 名、西三河支部 4 名、東三河支部 1 名)で、351 地点の確認報告をいただきました。

また、報告のあった場所を行政区域で分類すると、名古屋市内 3 区 5 地点、名古屋市以外の市域 20 市 158 地点、郡部 7 町 188 地点となりました。

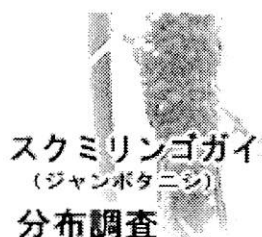
さらに、生息場所は、道路 256 地点、田畑 40 地点、河川敷や池 24 地点、人家や空地 23 地点、線路端 5 地点のほか、廃線後などで確認されたという報告もありました。(次頁参照)

今回の調査を通じて感じたことですが、オオキンケイギクは、愛知県内どの地域でもごく普通に見られるようになってしまった植物ですが、調査報告には地域的な大きな偏りがありました。これは、支部として調査に取り組んでいた支部があったこと、特定の方から熱心に報告をいただいたことによるものです。一方でほとんどの会員の方からの反応がなかったようにも感じました。特に協議会の役員をされている方であっても、今回の調査の意義を理解していただかず、全く報告をされなかった方がいたことは非常に残念でした。ここのところ協議会に対して様々な意見をいただいておりますが、会員の一人ひとりが、会の事業

に関心を持ち参加されることで、私たちが協議会を支え、創りあげているという意識をお持ちいただきたいと思います。

また、この調査に限りませんが、身の回りの自然をよく観ることで、身の回りの自然の移り変わりを意識していただけるものと思います。おそらく多くの場合は、周辺環境の変化や外来生物による侵略より、これまで普通に見られた生物たちが姿を消していることに気がつくられると思います。そして、ぜひ「自然観察から始める自然保護」を実践いただきたいと思っています。

■本年度の調査対象



さて、平成 20 年度はスクミリンゴガイ(俗称ジャンボタニシ)の分布調査を行います。

先にパンフレットをお送りしましたが、ジャンボタニシは、地域的に偏在して分布しているものと考えられますので、生息している場所だけでなく、生息が確認できなかった場所についても報告いただく内容となっています。

私たちが行っている調査は、多くの会員の協力がなければ成立しませんし、調査の意義さえなくなってしまいます。ぜひ地域からの報告をお待ちしています。

調査結果：オオキンケイギクの確認された市町村と生育環境

市町村	道路	空地等	線路	公園	農地	民家	河川敷	池堤	海岸	—	総計
名古屋市		2					3				5
豊橋市	1							1			2
岡崎市	13			1	1		1				16
一宮市							1				1
瀬戸市	24	3				6	7				40
半田市										4	4
春日井市	6	1				1	1				9
豊田市	44	1	2		1		1				49
安城市	11										11
西尾市	3										3
犬山市	3	1									4
小牧市	1			1							2
新城市	6										6
東海市	1										1
大府市					1					1	2
知多市										1	1
知立市		1									1
尾張旭市	1	1									2
岩倉市	1						1				2
日進市	1										1
田原市	1										1
春日町	1										1
扶桑町	1										1
美浜町	5	1			2				1	1	10
南知多町	3										3
武豊町		3								1	4
幸田町	128		1	1	31	1	4	3			169
総計	255	14	3	3	36	8	19	4	1	8	351

備 考

1 この集計は、協議会のホームページに公開されている表をもとに、編集担当でまとめたものです。詳細なデータは、ホームページでご確認ください。

2 表内の数字は、確認された地点数です。

3 地点数の多寡は、オオキンケイギクの分布状態によるというよりは、調査者の分布・調査密度によるものと考えられます。ただし、どういった環境のところに生育しているかの傾向は把握できるものと考えられます。（例えば道路沿いに多いことがうかがわれるといったことです。）

4 生育環境はある程度、まとめて表示してあります。本文との数字の差（例えば道路は本文で256、表では255）は、集計のし方によるものです（例えば「公園内の道路」という表現のところを公園に入れるか、道路に入れるかといったことです。なお、「—」は調査票で環境の欄が空白だったものです。

平成 20 年度第 2 回理事会報告

日時：H20/6/22（日）14:00～17:00

場所：大府市自然体験施設セレクトナ

出席者：松尾、降幡、浅井、石田、大谷、
近藤、齋竹、永田、布目、吉川、
吉田、樋口、三田、小山、榊原

議長：降幡 記録：齋竹

議 事

1 協議会の会費、協議会の役割

<主な意見等>

○協議会経費でウェイトの高い機関誌発行経費については、印刷会社を変更し、1回当たりの印刷費を39,500円から18,000円に節減する。

○次年度以降、理事の人数や開催頻度を見直し、交通等を削減する。

○当初は協議会があってその支部という形であったが、現在では支部が主体に事業を行い、その緩やかな連合体が協議会という形に変わりつつある。

○理事会は支部長の連絡会のような形でよいのではないか。

○観察会の保険について、協議会の10円の負担をやめる。

○会費の問題は支部と協議会の合計額が高いというより、二重に取られているという意識から来ていると思われる。

○現在、協議会に加入していない支部会員の取扱が課題となる。

○協議会費は、変更するなら1,000円減額して2,000円かと思う。

○ニーズの低い事業をやめ、機関誌発行、総会・講演会、事務局経費などに必要な経費を会計で試算してみる。

○機関誌を支部の通信とあわせて送ることにし経費を節減できないか。

○その案は、支部通信の発行頻度、時期、担当するスタッフの面で難しい点が多い。また、支部から協議会ニュースが送られると、協議会の必要性が感じられなくなる。

○県内には「野鳥の会」をはじめとして各種の自然環境関連団体があるが、県内で一つにまとまっているのは本協議会だけである。

2 今年度事業の実施状況

○研修会は「海岸の生物」(5/18・知多)、「シダ植物」(6/8・尾張)が終了。

今後の予定としては「海辺の生物」

(7/19・西三河支部)、「御池沼沢植物群落」(8/31・名古屋)、「大原調整池周辺自然観察」(10/5・東三河)、「蛇峠」(10/26・奥三河)である。

○あいちの自然観察は、段戸裏谷

(5/11・奥三河)、海上の森(5/25・尾張)、豊川放水路(6/1・東三河)、猪高(6/14・名古屋)、富具崎(6/21・知多)が終わった。全般に指導員の数に比べ一般参加者が少なかったが、他支部の指導員が多く参加したことは評価できる。残っているのは豊田市自然観察の森(8/2・西三河)である。

3 理事の役割分担(前回未決定分)

○松尾会長が兼務している事務局は、8月頃から順次浅井理事に事務を移行。

○近藤理事が保全担当に、吉川理事が名簿管理担当に決定。

○空席の副会長1名の補充、次の会長候補の選考が課題。

4 その他

○「あいち自然ネット」から「小中学生夏休み自然体験」の案内が来ているが、尾張支部が参加し、協議会は今回見合わせる。

○県の「あいち環境づくり推進協議会」に自然観察の実績を報告する。

○愛知県とNACS-Jの共催のフォローアップ研修が、「自然観察会でのリスクマネジメント」をテーマに、9月13日～14日に犬山ユースホステルで開催される。

○次回の理事会は8月24日13:30から春日井少年自然の家で開催する。

■生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) の開催について

5月にドイツで開催された生物多様性条約第9回締約国会議(COP9)において、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が愛知県名古屋市で開催されることになりました。

この生物多様性条約は気候変動枠組条約(地球温暖化)と双子の関係にある条約です。地球温暖化に関係する気候変動枠組条約は脚光を浴び、小学生までも知れ渡っていますが、生物多様性条約に関する事柄は一般にはあまり知られておりません。

今回、愛知県名古屋市で2010年に締約国会議(COP10)が開催されることで、一般の方々も興味を持たれると考えられます。

生物多様性と地球温暖化の取り組みは先進国が自分たちの無秩序な産業活動によってもたらされた南北問題、富の分配・資源の争奪等の問題という側面でもあり、両条約共に開発途上国が参加し、大きな発言力を持っていることが特徴です。

日本の国内においても、私たちの身近なところで、人口が減少する現在でも宅地開発、新しい工場立地等による自然破壊が行われ、生物の生息域が狭まっています。これに加えて外来生物が増殖し、私たちの身近にある田んぼの畦でさえ、ほとんどが外来種に置き換えられてしまっています。

このような現状の中で、日本はコンサベーション・インターナショナル(CI)が生物多様性重要地域を2005年に評価した際に「緊急かつ戦略的に保全すべき地域(生物多様性ホットスポットといいます。)」として世界34ヶ所のひとつに上げられています。この生物多様な日本に住む私たちの自然観察の普及等活動は生物多様性の保全に大きな役割を担っています。しかし、生物多様性については、あまり観察会の中で話してきませんでした。

今後、このことについて、一般の方々に分かり易く解説し、私たちがどのような行動をするかを考えるよい機会です。

是非、皆さんも考え、行動してください。

■会費納入を忘れていませんか？

20年度の会費(3000円)は納入されましたか。7月末までに納入されませんと、協議会ニュースの送付が停止してしまいます。また、今年度は名簿も印刷、配布する予定です。

再度ご確認のうえ、お忘れの方は、早急に支部会計を通じてお支払いください。

■会の愛称について =意見募集=

総会に、第6号議案として会の愛称が提案されましたが、さまざまな意見が出て決まらず、引き続き検討することとなっていました。

その後、自然観察指導員のメーリングリストでも一時、意見が寄せられましたが、候補がさらに増え、収束の方向には向かっていないのが実状です。これまで出されたものを紹介しますので、できることなら候補を絞り込む方向でご意見をお寄せください。

○総会の議案

- 愛知自然観察会連絡会
- 愛知県自然観察協議会
- 愛知県自然観察会
- 愛知自然観察会

○総会の中で出された提案

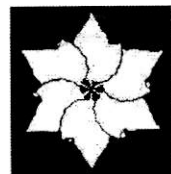
- 愛知自然観察連絡会
- 愛知自然観察ネット
- 愛知自然観察指連協
- NACS-A

○メーリングリストで出された提案

- NACS愛知
- ネイチャー愛知

なお、総会時に他県の例として、山梨の「ノラやまなし」、神奈川の「グリーンタフ」という事例が紹介されました。

愛称についてのご意見・ご提案は、事務局まで手紙・ハガキで、又は協議会のWeb Page(URLは最終ページ下段に掲載)からEメールでお寄せください。



行事予定

■研修会

- 佐久島「磯の生きもの」 7/19(土) 9:30~15:30
一色港渡船場集合(9:40発の渡船に乗船 運賃片道800円)
講師:岡田 速、伴 幸成
濡れても良い運動靴で。バケツ、マイナスドライバー、弁当持参
連絡先:三田 孝(0566-75-4059)
- 四日市市「御池沼沢植物群落」 8/31(日)
地下鉄本郷バスターミナル前8:30集合
または、東名阪自動車道御在所サービスエリア9:15集合
申込先:萩原育男(052-811-6477)

■あいちの自然観察会(従来の「ふるさと親子自然観察会」)

- 「たんぼとため池の観察」(豊田自然観察の森)
8/2(土)9:30~12:00 豊田自然観察の森駐車場集合
連絡先:三田孝(0566-75-4059)

■第3回理事会

8/24(日)13:30 から 春日井市少年自然の家の会議室
役員・理事以外の会員も傍聴できます。

編集後記

毎度のことながら、発行日間際になってあたふたと編集にとりかかり、7月号も編集を終えてほっと一息ついたところです。隔月発行だと2月もあるではないかと思われるでしょうが、掲載内容を考え、原稿の執筆をお願いし、執筆期間を1月近くみると、なかなかタイトなスケジュールです。

執筆者、編集担当、発送担当それぞれ頑張って、協議会ニュースをお届けしていますが、会員の方から反応が返ってこないで、どれ程の人に読まれているのか気になります。おもしろかった、つまらなかった、こんな内容を書かせて欲しいなど、何でも結構です。そうした声が、会員の期待に応えられる機関誌づくりにつながります。投稿も歓迎です。今回は、総会で宿題となっていた会の愛称についても、意見募集していますので、そちらの方もよろしくご協力ください。

(齋 竹)

編集スタッフ

岡田 雅子 近藤 記巳子
齋竹 善行 酒井 勇治
永田 孝 山口 健

発送スタッフ

岩沙 雅代 横井 邦子

協議会ニュース編集部

〒482-0007
岩倉市大山寺元町 12-3
齋竹 善行
メール: BZA03620.nifty.ne.jp

■愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局(当面)

〒486-0904 春日井市宮町3-6-2

松尾 初

Tel 0568-32-5069

■Web Page: <http://naichi.net/>

■郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)